

第89回定例研究会

10月18日(金)

於：静岡県評会議室

青年組合員の意識調査

～ 静岡県内組合員を含めて～

報告者：中澤秀一 氏(主任研究員、静岡県立短期大学准教授)

はじめに

「ブラック企業」拡大の背景には、労働組合運動が弱体化したことが関係しているとの見方がある。若者にとって労働組合とは「頼りにならない」存在なのか？

調査の概要

- ・計15名に対して聞き取り調査を実施
第1回調査(2011年3月)=7名
第2回調査(2012年12月)=8名(静岡)

加入のきっかけ・組合への参加状況

- ・加入の経緯～多くが抵抗感なく加入～
- ・活動への参加状況～自らの意志で加入した人は積極的

学生時代から就職後のイメージの変化

- ・学生時代のイメージ～大多数が特にイメージはなかった～
- ・就職後のイメージの変化～活動を通してイメージが好転～

若手組合員の思い

- ・同僚の組合イメージ

～理解されていない活動内容～

- ・組合活性化の取り組み
～「つながれる場」づくり～
- ・組合活動における課題
情報提供、世代間ギャップ、次世代育成

おわりに

学生時代には労働組合に関する知識や関心はほとんどなく、就職後に「まわりがほとんど入っているから」「何となく」組合に加入し、活動に関わるなかで組合の必要性を理解し、良いイメージに変わっていった人が多い。

青年部の役員には活動を活性化させ、次世代の担い手を育てようという強い問題意識が感じられた。

親組の役員との意識のギャップを感じている青年部役員も少なからず見られた。

役員ではない組合員には、それほど気負いは感じられず、活動の面倒くささを感じつつも、組合の必要性を認め、「自然体」で組合活動に関わっているように感じられた。

第4回浜松支所総会

10月27日(日)

於：Uホール(浜松)

- ・太田泰久 氏「インド・マルチスズキの調査報告」
- ・高橋万記子 氏「ドイツ・スイス視察旅行-脱原発と再生可能エネルギー先進国」

記念講演：鳥畑与一 氏(静岡大学教授)

「アベノミクスの行方～国民に何をもたらすのか～(異次元の金融緩和を中心に)」

アベノミクスの三本の矢＝大胆な金融緩和...「折れた矢」、機動的な財政政策...「曲がった矢」、
「企業が活動しやすい国」成長戦略...「毒矢」。バズーカ砲と呼ばれた異次元の金融緩和政策は、すでに失敗した。さらに継続していけば金融資産の大暴落で、日本経済大恐慌を引きこす可能性がある。成長戦略は、典型的なサプライサイドのトリクルダウン理論に基いた政策であり、解雇自由、中小企業の倒産助長、グローバル企業支援を目指している。アベノミクスは基本的に、外資系ファンドの金もうけ政策であり、国民の生活が根こそぎにされる。地域循環型経済の道と、真っ向から敵対する方向である。

* 連絡先：〒422-8062 静岡市駿河区稲川 2-2-1 コハラサウスサイドビル 7F
静岡県労働研究所 TEL 054-287-1293 FAX 054-286-7973

メール roudouadv@wave.wbs.ne.jp ホームページ <http://www.geocities.jp/shizuokarouken/>